B—94 衣料用人工皮革の縫製条件設定のための基礎的研究（第9報）モなみの取り扱いについて

文教大教育　○松田歌子　東京学芸大　鳴海多恵子　大妻女大短大　山下久子　東京学芸大　辻栄子　石毛フミ子

目的　現在市販されている衣料用人工皮革はいずれもスエードタイプである。そのためいずれもモなみによる布の方向性を有している。被服構成学上、これをどの様な方向に用いればよいかについては未だ報告が見られない。そこで、衣料用人工皮革の縫製条件設定のための資料とするためにモなみについて検討を行った。

方法　(1)試料　第6報と同じ人工皮革と、モなみのある布として縞ビロードを加えた。

(2)実験方法　① 官能検査…平面状態，ギャザー状態，タック状態について、被服構成に習熟していない女子学生について好みの調査を行った。

② 45°，0°拡散反射率をしらべた。

③ 洗濯実験…洗濯によるモなみの乱れを見るために、洗い方3種（水浸2時間，軽く手洗い，洗濯機洗い）しぼり方3種（しぼらず，軽く水切り，脱水機しぼり）を行った。

④ 着用実験…左右，モなみの異るスカートを作成し着用実験を行った。

結果　① 従来被服構成においては、モあしの短い場合は逆モで縫製されるのが常識とされ、良いとされて来たが，官能検査の結果は必ずしもその通りではない。

② 方向による見え方の差異を白度によって計量することができた。

③ 洗濯によってモなみの乱れが認められた。

④ 300時間着用の結果，モ先がピリングしたり，順モと逆モが見分けられない部位も表れた。